



THE LETTER 宇都宮東教室

第 19 号 「算数」

発刊日 2026 年 3 月 4 日

文責 熊澤洋一

お子様の算数でこんなことを感じていませんか。

計算はできるけど、応用問題は苦手・文章題になると手が止まる・学校の授業は 100 点だから大丈夫

小 5，6 の高学年の算数には、日々生活にしていって中で体感してきた算数から、「単位」「割合」「速さ」・・・など新しい概念が導入されます。また、計算にも、数字だけでなく「通分、小数点」などの概念を理解して解く力が加わることになります。これらの単元は、抽象的で具体的なイメージがしにくく、躓きの原因になります。また各単元に「広がり」ができるため特殊算、図形など学習量が急増していきます。

小学校のテストはその単元で学習した内容を理解できているか「基礎学力の習熟度」を確認しているに過ぎません。特にカラー単元テストは「教科書内容」に沿っており、ある程度の点数は取れるようにはなっています。100 点が当たりまえ」という考えは「授業をしっかりと聞いていれば取れる点数」、という考えに基づいています。ただし、常に 100 点が取れると、授業内容をすぐに理解してしまうため、「受け身の姿勢」で時間を過ごしやすくなることがあります。また、苦労せずに良い点が取れると、「努力して何かを掴む」という経験が不足しがちになります。中学進学後の「数学」は思考力や応用力が問われるので、「急に難しくなった」、「点数が取れなくなった」と発言する生徒が多いのはそのためです。努力せずにできたこと、できてしまったことには、なかなか価値を見出せないものです。「負荷」を乗り越えた先に達成感や自信が生まれてきます。

算数は単元ごとに知識が積み重ねられていく「積み上げ学習」であり、理解が不十分な箇所があると、その後の学習に悪影響を与えてしまいます。塾では、学校で習った知識の復習に加え、大切な「ポイント」を重点的に学ぶことで確実に定着させることができます。また、小 5 算数は「数学のベース」となるほぼ全単元が含まれていることから、「早め」の学習がお勧めです。